

■ 評価の概要

館山市社会福祉協議会では、「館山市地域福祉計画・地域福祉活動計画（令和6年度～令和11年度）」に基づき、令和6年度の取組状況について自己評価を実施しました。

評価	内容
A	順調に進んでいる
B	概ね順調だが、不十分な点がある
C	実施はされているが不十分である
D	実施を含めて再検討が必要・未実施

■ 基本目標1：市民の繋がり強さを活かす市民協働の豊かな人づくり

【市民福祉の心と意識の向上】 評価：C

各支部での福祉勉強会（出前講座）を実施しました。

包括的相談支援事業として男の料理教室（3回・27名）、終活ノートづくり講習会（1回・7名）を実施しました。会場が市内中心部に集中しており、今後は地区別（旧小学校圏域）での開催を検討します。生活支援体制整備事業として地域づくりフォーラム・規範的統合研修・支部向け説明会を各1回実施しました。

【自殺対策・孤立防止】 評価：C

自殺対策計画の周知は行政との協議の機会が十分に確保できておらず、未実施です。地域ボランティアによる友愛訪問、シニア連合会の地域活動・イベント開催、民生委員による高齢者独居世帯の見守りを通じ、孤立防止に取り組みました。

【人権擁護・虐待防止・一人暮らし支援】 評価：C

虐待通報対応（1件）、認知症介護家族・当事者のつどい（4回）を実施しました。

日常生活自立支援事業では生活支援員7名が契約者宅を訪問し支援しました。

住まいの相談6件・終活相談4件に対応しましたが、相談のつなぎ先の開拓が課題です。

【地縁型・目的型市民組織への支援】 評価：C

生活支援体制整備事業の協議体について一部地縁型組織へ説明を行いました。連携促進の取組は不足しています。

町内会活動支援については連携が十分ではなく、複数の取組が未実施です。

■ 基本目標2：暮らしやすい生活環境のさらなる整備で、安全・安心な毎日を創り出す地域づくり

【障害や困難を抱える市民への地域参加支援及び居場所づくり】 評価：C

支部事業のいきいきサロン事業を継続実施しました。

新規地域食堂の立ち上げ支援（1件）、市介護予防事業「体操教室」への協力、一部地域での居場所づくり支援（1箇所）を実施しました。

公民館・集会所の閉鎖に伴う活動場所の減少が懸念されており、行政との協働が必要です。

【防災・減災体制の整備】 評価：C

個別避難計画の策定に向け一部地域で説明を実施しましたが、策定には至っていません。

被災者台帳の整備・福祉避難所の運営体制整備は、行政との協議の場が十分ではなく未実施です。

【買物・通院などへの移送支援】 評価：B

地域住民の互助による移送支援の研修会・打ち合わせを実施しました。保険加入や担い手不足などの課題があり、フォーラム・ワークショップ等での発表を通じた裾野拡大を目指します。

一部地域で住民主体によるお助け隊活動の中で移送支援が実施されています。

【若者・移住者の定住支援／耕作放棄地対策】 評価：D

就労・住まい・子育て環境の確保、空き家情報の提供、耕作放棄地対策はいずれも検討できておらず、未実施です。

関係部署・団体との連携体制の構築が課題です。

【日常生活支援事業の充実】 評価：B

日常生活自立支援事業では、新たに3名の生活支援員が活動を開始し、計7名の契約者を支援しました。

■ 基本目標3：いろいろな"暮らしにくさ"に正面から向き合うサービス基盤づくり

【ヤングケアラーへの支援】 評価：C

地域包括支援センター「なのはな」と共同でヤングケアラー学習会を実施し、児童・教育部門との顔の見える関係づくりを進めました。相談実績はなく、引き続き相談受付体制の整備が必要です。

【子育て環境の整備・児童虐待への対応】 評価：C

主任児童委員による子育てサロンを不定期で実施しました。

今後は市と共同でサロンの拡充を目指します。

月1回の「元気な広場」で相談窓口を周知するとともに、虐待に至る要因（困窮・家庭不和・精神疾患等）へのアウトリーチを実施しました。

【孤立・孤独の解消、ひきこもり支援】 評価：C

ひきこもり対象者・家族への支援を実施し、南房総ひきこもり支援協議会のコアメンバーとして研修会・普及啓発活動に協力しました（相談2件対応）。

千葉県ひきこもり地域支援センター主催の研修・事例検討会に参加し、支援者のスキルアップに努めました。

【自殺予防の取組】 評価：D

市自殺対策計画への連携・協力、ゲートキーパーの養成、「まちの縁側」（仮称）の設置検討はいずれも未実施です。

行政との連携協議が行われていないことが主な要因であり、協議の場の検討が必要です。

一方で、地域活動への参加を通じた「まるごと相談」の周知・相談受付体制の構築を図っています。

【権利擁護・意思決定支援】 評価：C

安房地域権利擁護推進センターと連携し、成年後見制度の普及啓発講習会・市民後見人PRシンポジウムに参加しました。

令和7年度には第2期市民後見人養成研修が予定されています。

■ 基本目標4：市社会福祉協議会の活動基盤づくり

【自主財源の拡大・財政基盤の強化】 評価：C

会費拡大に向け町内会・施設団体への協力依頼、社会福祉協議会広報「社協たてやま」での呼びかけを実施しました。

寄付・共同募金の実績公表や使用用途の報告により透明性を確保しました。

日常生活自立支援事業の利用料収入を自主財源として確保しています。今後は法人後見事業の検討を通じた後見報酬を活用した自主財源強化を目指します。

独自施策・事業の展開は財政基盤整備が追いついておらず未実施です。

【地区社協・専門職体制の強化】 評価：C

各支部への活動支援は継続していますが、活動強化及び地域福祉コーディネーターの配置は組織体制の再編が必要であり未実施です。

専門職（社会福祉士・精神保健福祉士等）の増員は事業・財政上の理由、また、社会的な人材不足等の理由から未実施、コミュニティソーシャルワーク機能の整備は検討中です。

【重層的支援体制整備事業への対応】

事業実績

包括的相談支援事業 46件

参加支援事業 4件

アウトリーチを通じた継続的支援 145件

まるごと相談窓口への相談受付 民生委員・市役所各課等から25件、郵便局出張相談から5件

地域への広報活動を積極的に実施しましたが、困りごとを有する本人からの直接相談件数の増加に向けた取組が課題です。今後は出張相談会の機会を増やし、さらなる周知・アクセス向上に取り組めます。

■ 令和6年度 全体評価のまとめと今後の方向性

評価	評価項目数	主な内容
A	0	該当なし
B	2	いきいきサロン事業・日常生活自立支援事業・居場所・地域づくり支援等
C	12	各種相談支援・見守り活動・ヤングケアラー対応・権利擁護・財源確保等
D	2	自殺対策・防災体制・専門職増員・若者定住支援・ゲートキーパー養成等

令和6年度は、相談支援・見守り・居場所づくりなど日常的な福祉活動は概ね継続できた一方、行政との連携が前提となる取組については協議の場が十分に確保されていないものが多く、未実施・不十分な状況が見受けられました。

令和7年度以降は、以下の4点を重点課題として取り組めます。

行政との連携協議の場の検討（自殺対策・防災・居場所づくり等）

重層的支援体制の充実（行政との方針検討）

財政基盤の強化（法人後見事業の検討・自主財源の確保）

担い手の育成（生活支援員・市民後見人の養成）

お問い合わせ：館山市社会福祉協議会 TEL：0470-23-5068